

# 会 派 合 同 視 察 報 告

市民クラブ

中牧 盛登

大厩 富義

創生みらい

傳刀 健

降旗 達也

期間：令和4年8月4日（木）から5日（金）まで（2日間）

査察地及び視察事項

（1）新潟県十日町市

越後妻有 大地の芸術祭

・芸術祭の運営について

（2）新潟県三条市

- ・まちづくり施策と公共交通について
- ・例月政策会議による政策提言について
- ・三条市立大学開学について



## 1. 新潟県十日町市

### 越後妻有 大地の芸術祭

日 時：8月4日（木）10時00分から16時30分



1994 年、新潟県知事が提唱した広地域活性化政策「ニューにいがた里創プラン」に則り、アートにより地域の魅力を引き出し、交流人口の拡大等を図る 10 カ年計画「越後妻有アートネットワーク整備構想」がスタート。そのアドバイザーとして、アートディレクター・北川フラムに声が掛かる。これが出発点となり、地域活性化事業の柱として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が 2000 年に始まった。

※大町市においても、大地の芸術祭と同一のディレクターである北川フラム氏によって「北アルプス国際芸術祭」が開催されている。

今回の大地の芸術祭を開催するにあたっての課題、大地の芸術祭を 20 年間続けてきた検証結果、近隣地域との広域連携についてなど、今後の「北アルプス国際芸術祭」の方向性等について先進地の事例より学ぶ。



## ○これまでのあゆみ

### 1994

「ニューにいがた里創プラン」による「越後妻有アートネックレス整備構想」がスタート  
総合ディレクターに北川フラムが就任



新潟県知事が提唱した広地域活性化政策「ニューにいがた里創プラン」に則り、アートにより地域の魅力を引き出し、交流人口の拡大等を図る 10 カ年計画「越後妻有アートネックレス整備構想」がスタート。そのアドバイザーとして、アートディレクター・北川フラムに声が掛かります。これが出発点となり、地域活性化事業の柱として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が 2000 年に始まりました。

### 北川フラム／PROFILE

#### アートディレクター

1946 年新潟県高田市（現上越市）生まれ。東京芸術大学卒業。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」「北アルプス国際芸術祭」「奥能登国際芸術祭」の総合ディレクター。地域づくりの実践として、「ファーレ立川アート計画」（1994／日本都市計画学会計画設計賞他受賞）や「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（第 7 回オーライ！ニッポン大賞グランプリ〔内閣総理大臣賞〕他受賞）ほか、長年の文化活動により、2003 年フランス共和国政府より芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。2006 年度芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）、2007 年度国際交流奨励賞・文化芸術交流賞受賞。2010 年香川県文化功労賞受賞。2012 年オーストラリア名誉勲章・オフィサー受賞。2016 年紫綬褒章受章。2017 年朝日賞受賞。2018 年文化功労者に選出。2019 年日本建築学会文化賞受賞。2019 年イーハトーブ賞受賞。施設概要

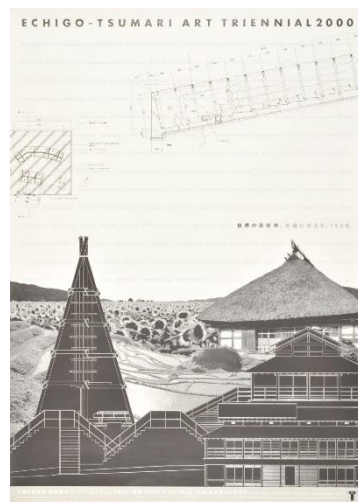
### 2000

#### 大地の芸術祭

#### 越後妻有アートトリエンナーレ 2000

**※反対意見が多い中、初回開催**

- ・会期：2000 年 7 月 20 日～9 月 10 日
- ・会場：越後妻有 6 市町村 762 km<sup>2</sup>（新潟県十日町市・川西町・津南町・中里村・松代町・松之山町）
- ・主催：越後妻有大地の芸術祭実行委員会
- ・実行委員長：本田欣二郎（十日町市長）





- ・総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）
- ・アートアドバイザー：ジャン・ド・ロワジー、オクワイ・エンウェゾー、中原佑介、アピナン・ポーサヤーナン、ウルリッヒ・シュナイダー、ナンシー・スペクター
- ・作品数：153 点
- ・参加アーティスト：32 の国と地域 148 組（うち公募 6 組、プロポーザル参加 12 組）
- ・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：28 集落
- ・来場者数：162,800 人
- ・こへび隊登録人数：約 800 人

## 2003

大地の芸術祭

越後妻有アートトリエンナーレ 2003

※独自性が見えてきた第二回

- ・会期：2003 年 7 月 20 日～9 月 7 日
- ・会場：越後妻有 6 市町村 762 km<sup>2</sup>（新潟県十日町市・川西町・津南町・中里村・松代町・松之山町）
- ・主催：大地の芸術祭・花の道実行委員会
- ・実行委員長：滝沢信一（十日町市長）
- ・総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）
- ・アートアドバイザー：ハウ・ハンルウ、ローザ・マルティネス、トム・フィンケルパー、中原佑介
- ・作品数：220 点（うち恒久設置作品 67 点）
- ・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：38 集落
- ・参加アーティスト：23 カ国 157 組
- ・来場者数：205,100 人
- ・こへび隊登録人数：711 人



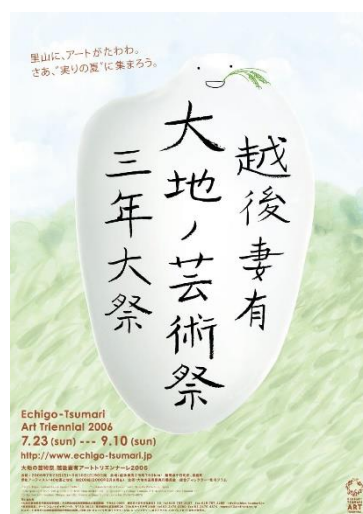
## 2006

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006

※新潟県中越地震を乗り越えて

- ・会期：2006 年 7 月 23 日～9 月 10 日
- ・会場：越後妻有 2 市町 760 km<sup>2</sup>（新潟県十日町市、津南町）
- ・主催：大地の芸術祭実行委員会
- ・名誉実行委員長：泉田裕彦（新潟県知事）

- ・実行委員長：田口直人（十日町市長）
- ・総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）
- ・アートアドバイザー：トム・フィンケルパール（アメリカ）、ハウ・ハンルウ（中国／フランス）、ヤン・チェル・リー（韓国）、中原佑介（日本）、オル・オギユイベ（ナイジェリア）、ジェームズ・パットナム（イギリス）、ウルリッヒ・シュナイダー（ドイツ）
- ・ディレクター：Fの会（いけばな）、入澤美時（陶芸）、入澤ユカ（アート）、田中文男（空家プロジェクト）
- ・作品数：334点（うち恒久設置作品131点）
- ・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：67集落
- ・参加アーティスト：40の国と地域 225組
- ・来場者数：348,997人
- ・こへび隊登録人数：930人



## 2009

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2009

※官民協働の実践が始まる／NPO 法人越後妻有里山協働機構の立ち上げ

- ・会期：2009年7月26日～9月13日
- ・会場：越後妻有 2市町 760 km<sup>2</sup>（新潟県十日町市、津南町）
- ・主催：大地の芸術祭実行委員会
- ・名誉実行委員長：泉田裕彦（新潟県知事）
- ・実行委員長：関口芳史（十日町市長）
- ・副実行委員長：小林三喜男（津南町長）
- ・総合プロデューサー：福武総一郎
- ・総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）
- ・アートアドバイザー：トニー・ボンド、トム・フィンケルパール、ウルリッヒ・シュナイダー、入澤美時、入澤ユカ、中原佑介
- ・作品数：365点（うち恒久設置作品149点）
- ・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：92集落
- ・参加アーティスト：40の国と地域 約350組
- ・来場者数：375,311人
- ・こへび隊登録人数：350人



## 2012

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012

※たび重なる災害からの復興と、越後妻有里山現代美術館

「キナーレ」の誕生

- ・会期 : 2012 年 7 月 29 日～9 月 17 日
- ・会場 : 越後妻有 2 市町 760 km<sup>2</sup> (新潟県十日町市、津南町)
- ・主催 : 大地の芸術祭実行委員会
- ・名誉実行委員長 : 泉田裕彦 (新潟県知事)
- ・実行委員長 : 関口芳史 (十日町市長)
- ・副実行委員長 : 上村憲司 (津南町長)
- ・総合プロデューサー : 福武総一郎 (株式会社ベネッセホールディングス取締役会長)
- ・総合ディレクター : 北川フラム (アートディレクター)
- ・アートアドバイザー : ハンス=ウルリッヒ・オブリスト (サーペンタイン・ギャラリー (ロンドン) ディレクター) ファン・ドウ (インディペンデント・キュレーター)
- ・クリエイティブ・ディレクター : 佐藤卓 (佐藤卓デザイン事務所)
- ・作品数 : 367 点 (うち恒久設置作品 189 点)
- ・作品展示集落数 (公園など公共の場合含む) : 102 集落
- 参加アーティスト : 44 の国と地域 310 組
- 来場者数 : 488,848 人
- こへび隊登録人数 : 1,246 人



## 2015

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015

※”新しい廃校”を活用した3つの新拠点の誕生

- ・会期 : 2015 年 7 月 26 日～9 月 13 日
- ・会場 : 越後妻有 2 市町 760 km<sup>2</sup> (新潟県十日町市、津南町)
- ・主催 : 大地の芸術祭実行委員会
- ・名誉実行委員長 : 泉田裕彦 (新潟県知事)
- ・実行委員長 : 関口芳史 (十日町市長)
- ・副実行委員長 : 上村憲司 (津南町長)
- ・総合プロデューサー : 福武総一郎 (株式会社ベネッセホールディングス取締役会長)
- ・総合ディレクター : 北川フラム (アートディレクター)



・クリエイティブ・ディレクター：

佐藤卓（佐藤卓デザイン事務所）

ネットワーク・アドバイザー：

高島宏平（株式会社オイシックス代表取締役社長）

・オフィシャルサポーター：

荒井優（東日本復興支援財団専務理事／ソフトバンク社長室勤務）／安藤美冬（株式会社スプリー代表／コラムニスト）／乙武洋匡（作家／東京都教育委員）／佐藤大吾（一般財団法人ジャパンギビング代表理事）／為末大（元アスリート）／津田大介（ジャーナリスト）／吉田浩一郎（株式会社クラウドワークス代表取締役社長兼 CEO）／吉松徹郎（株式会社アイスタイル代表取締役社長兼 CEO）

・作品数：378 点（うち恒久設置作品 182 点）

・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：110 集落

・参加アーティスト：35 の国と地域 363 組

・来場者数：510,690 人

・こへび隊登録人数：2,270 人

・地元サポーター登録人数：152 人

## 2018

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018

アジアへの拡がり／海外からのサポーター&来場者増、中国ハウス・香港ハウスの誕生、清津峡溪谷トンネルのアート化

・会期：2018 年 7 月 29 日～9 月 17 日

・会場：越後妻有 2 市町 760 km<sup>2</sup>（新潟県十日町市、津南町）

・主催：大地の芸術祭実行委員会

・名誉実行委員長：花角英世（新潟県知事）

・実行委員長：関口芳史（十日町市長）

・副実行委員長：桑原悠（津南町長）

・総合プロデューサー：福武總一郎（株式会社ベネッセホールディングス取締役会長）

・総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）

・クリエイティブ・ディレクター：佐藤卓（株式会社 TSDO）

・オフィシャルサポーター・リーダー：高島宏平（株式会社オイシックス・ラ・大地代表取締役社長）

・作品数：379 点（うち恒久設置作品 210 点）

・作品展示集落数（公園など公共の場合含む）：102 集落





- ・参加アーティスト：44の国と地域 363組
- ・来場者数：548,380人
- ・こへび隊登録人数：2,742人
- ・地元サポーター登録人数：301人



## 〇所 感

### 〇十日町大地の芸術祭 2022 について

作品数は全部で 333 点（第 8 回）、2022 年 4 月 29 日から 11 月 13 日の全 145 日の開催です。通年開館の作品はありますが、春と夏のみの公開、夏から公開、夏だけ公開しているものなどです。全作品が 145 日間オープンしているわけではありませんでした。その理由は、地域との協働による作品の制作等があり、地域や関係機関と相談しながら決めるそうです。夏は可能な限り全部の作品をオープンする予定とのことでした。

1) 開催期間を 145 日とした理由は、①コロナ禍の中での開催であることから、コロナウイルスの感染状況に対応するため長期間の開催日程としたそうです。②降雪量が多い地区なので、11 月 13 日まではぎりぎりの日程だそうです。

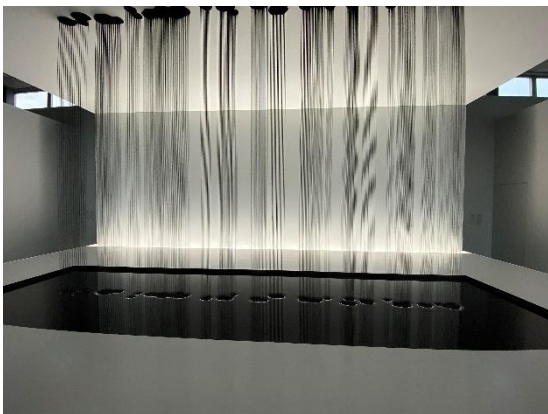
長期間にわたる開催日程だと運営体制や方法が課題です。特に、大町のように市の職員がメインの運営体性では厳しい状況も想定されると思いました。

2) 大地の芸術祭を 20 年間続けてきた検証結果について

大地の芸術祭は、第 1 回（2000 年）から 3 年ごとに開催し、第 7 回（2018 年）までの 18 年間の実績について説明を受けました。

第 1 回と第 7 回の比較では、入込客数 16 万人から 55 万人、参加集落は 28 から 102 集落、作品数 146 から 379 作品。来訪者の動向は、半数は初めて、4 割はリピーターだそうです。年齢層では、20 代 30 代で約半数でした。

大町の芸術祭と違い、規模も大きく作品間が離れています。交通手段はマイカーが 5 割だそうです。2 次交通が課題とのことでした。それぞれの集落の協力の度合いは差があるそうですが、住民の理解度は大町よりは高い。ボランティア団体の組織も課題はあるものの、大町よりしっかりしている。20 年の成果として一定の経済効果や知名度も認められました。残された課題は、持続的な財源の確保。担い手となる人材の育成、確保。観光受入体制と経済効果拡大。だそうです。大町も同じような課題だと思いました。





### ○大地の芸術祭

・大地の芸術祭に対する地元住民の変化は、開催 3 回くらいから変わってきたとの説明を受けた。

結論、芸術祭の運営は十日町市も職員の動員が欠かせないとのことであり、芸術祭を開催している市町村の課題はどこも同じ悩みを抱えていることが理解できた。

・当市で行う次回芸術祭の開催に向けては、運営主体を市職員から民間に変える工夫やアイデアが求められているように感じた。

### ○大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟県十日町市）

2000 年より開催され、今回 8 回目を迎えるとあって、芸術祭の「形」が出来上がっていると感じた。特に市民の芸術文化に対する意識の気運は高く、市民が参加して作り上げている作品が多い。そこには 60 年以上続いている「十日町雪まつり」が住民主体で開催されていることもあり、元来、市民参加の芸術文化が醸成されていたと感じる。また、360 の展示の内 200 展は通年、うち 100 展は常設されているということで、市民の芸術文化に触れる機会がトリエンナーレ期間以外にも十分備わっている。

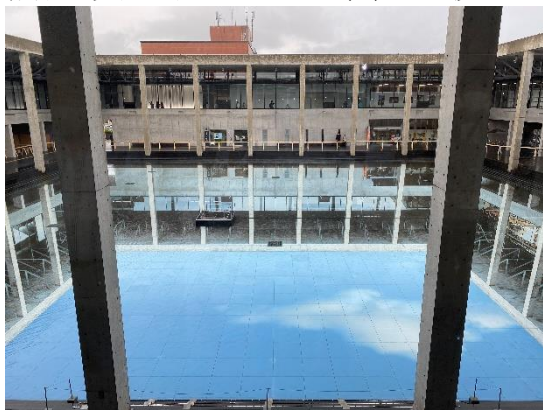


芸術祭を通して、地域の観光資源や素晴らしさを再発見するという方向性は、北アルプス芸術祭も同じであり、芸術祭の本来の目的であるように感じる。

開催における課題に関しては、特に自主財源を中心とした財源確保や市民やボランティアの参加を増やすといった点は、北アルプス芸術祭にも共通する課題である。

### ○大地の芸術祭

芸術祭を始めて 1、2 回は住民の方の反応は良くなかったが、3 回目くらいから変化が出てきたとのこと。10 年経ってようやく声が聞こえるようになってきた。北アルプス国際芸術祭も次回 3 回目になるが、住民の反応は上がってくるのか・・・。



運営主体は、大町市同様、市の職員が多く担っているとのこと。担当としては市民などが主体の実行委員会へ移していきたいとの考えもあるが、ディレクターとの考えの違いがあって難しいという話も……。いつまでも実行委員会という名で行う市の事業ではなく、ちゃんとした実行委員会という形の運営にしていかなければならないと感じた。

## 2. 新潟県三条市

- ・まちづくり施策と公共交通について
- ・例月政策会議による政策提言について
- ・三条市立大学開学について

日 時：8月5日（金）9時00分から12時00分

### ○三条市立大学開学について



#### 大学の基本情報

|         |   |                   |
|---------|---|-------------------|
| 大学名     | : | 三条市立大学            |
| 学部名     | : | 工学部               |
| 学科名     | : | 技術・経営工学科          |
| 1 学年定員  | : | 80 名              |
| 学校種     | : | 公立 4 年制大学         |
| 整備・運営方式 | : | 市が施設を整備、公立大学法人が運営 |
| 開設年度    | : | 2021 年度           |
| 開設場所    | : | 三条市須頃地区公庫         |

#### 沿 革

- |        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 2015 年 | ・ <b>三条市総合計画に高等教育機関の設置又は誘致に取り組む旨、言及</b>                |
|        | ・ 高等教育機関設立構想開始                                         |
|        | ・ 高等教育機関設置準備室設立                                        |
| 2016 年 | ・ 実学系ものづくり大学開設検討委員会を設置                                 |
| 2017 年 | ・ 実学系ものづくり大学開設検討委員会より「三条市実学系ものづくり大学の在り方等について『中間まとめ』」公表 |
|        | ・ 実学系ものづくり大学教育内容等検討実務者会議設置                             |
| 2018 年 | ・ 高等教育機関設置推進室設立                                        |
|        | ・ 大学名、学部・学科名(仮称)決定                                     |

## 2019 年

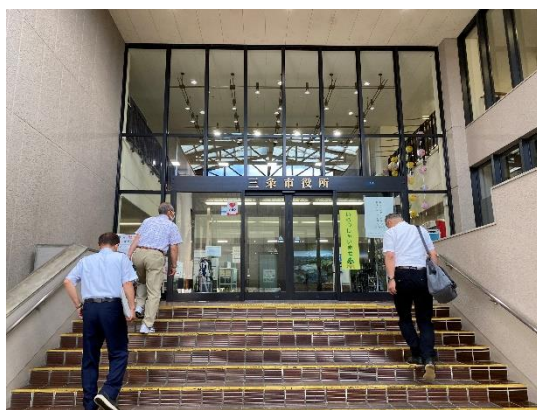
- 1 月 ・ 検討委員会の名称を三条技能創造大学開設検討委員会に変更
- 10 月 ・ 文部科学大臣へ三条技能創造大学の設置認可を申請

## 2020 年

- 3 月 ・ 大学名（仮称）を三条市立大学に変更
- ・ 検討委員会の名称を三条市立大学開設検討委員会に変更
- 10 月 ・ 文部科学大臣が三条市立大学の設置を認可
- ・ 新潟県に公立大学法人の設立認可を申請
- 12 月 ・ 学校推薦型選抜・社会人特別選抜を実施
- ・ 新潟県が公立大学法人三条市立大学の設立を認可

## 2021 年

- 2 月 ・ 一般選抜・前期日程試験を実施
- 3 月 ・ 一般選抜・中期日程試験を実施
- 4 月 ・ 公立大学法人三条市立大学設立
- ・ 三条市立大学開学



※三条市総合計画（平成 27 年度から平成 34 年度）は、総花的になりがちな「総合計画」を、少子高齢化、人口減少社会に特化した内容で策定されている。「高等教育機関の設置又は誘致」ということが具体的に総合計画に登載され、計画期間内に高等教育機関の設立・招致が実現している。大町市においても、少子高齢化・人口減少というものは共通の課題であり、将来にわたって存在し続けていくことのできる大町市を築いていく一助となる事例を先進地の事例より学ぶ。





## 第1章 若年層の転出抑制

### 第1節 高等教育環境の充実

#### 【現状と課題】

三条市内の高校の卒業生は、約8割が大学等に進学し（図1）、その多くが市外県外に流出していきます。そして、卒業後にそのまま都市部で就職するため、三条市に戻る若者は僅かしかいません。特に若年女性は、この傾向が顕著で一旦市外に転出するとほとんど戻ってこないという状況にあります（図2）。

こうした流れを転換し、若年層に高校を卒業しても三条市に留まり続けてもらうためには、学生や保護者を引き付ける特色や魅力を備えた高等教育環境を充実することが必要です。

#### 【基本方針と施策】

#### 1 高等教育機関の設置又は誘致

学生や保護者を引き付ける魅力は、専門性が高く資格取得に結び付くことや就職までの道筋を描けることなどです。そうした観点でこの地域の特性や置かれている現状を鑑みたとき、地域で求める人材の育成が地元の就職に結び付くといった大きな利点を見い出せる分野は、多様な産業の集積により広範な就職先が見込まれるものづくりと超高齢社会で重要な役割を担わなければならない一方で人材不足に悩まされる地域医療です。

当市の基幹産業の一つであるものづくり分野において、製品ニーズの多様化や価格競争などが激化する中、ものづくりの持続可能性を高めるためには、伝統的な技術の維持や継承とともに、その技術を進化・発展させて独自の企業価値を創出していくための人材の確保と育成を図ることが必要です。そして、その現場が求めている人材は、数ある工業系大学等で学習や研究により技術を知識として修得しただけの人材ではなく、それを実践を通じてものづくりに活かせる技能にまで高めた人材です。

このことから、既存の工業系大学にありがちな知識を積み重ねることに重きを置いた大学ではなく、地元企業と連携した演習や就業体験などによる技能習得に重きを置いた大学の設置又は誘致に取り組みます。

他方、超高齢社会が急速に進展する日本の状況を見据えたとき、地域医療体制の充実が不可欠であり、その担い手である看護職員の需要はますます大きくなっていきます。しかし、人口10万人当たりの看護職員数を見ると、新潟県は全国で30位と下位に位置し、さらに県央地域は県内7圏域中最下位となっています。その上、県内の採用状況を見ても毎



年募集人員の約7割の採用という状況（図3）が示すとおり、慢性的な看護職員不足に陥っています。今後、県央基幹病院の開設が予定されていることから人材不足が更に深刻になることも予想され、看護職員の養成が急がれています。その他にもこの分野では、歯科衛生士も不足していることから、その養成も求められています。

そのために、比較的女性の就職につながる看護職員等の養成を行う総合的看護学校の設置又は設置の支援に取り組みます。

(1) ものづくり系高等教育機関の設置又は誘致

当市のものづくりが、将来にわたって存続していく上で欠かすことのできない人材を育成するため、他の大学と差別化を図り、技術を実践に活かせる技能に高める演習や実学を中心とする大学を設置又は誘致します。

(2) 看護系高等教育機関の設置又は設置の支援

慢性的な人材不足を改善するために、准看護師の養成、准看護師から看護師になるための養成、看護師の養成などを総合的に展開できる高等教育機関の設置又は設置の支援をします。



## 〇所 感

### 〇三條市立大学開学について

三條市の高校生の卒業生は、約 8 割が大学等への進学で、その多くが市外・県外に流出し、卒業後に地元へ戻ってこない（大町市と同様）。この流れを転換するため高等教育環境を充実することを目的に市立大学等を設置しました。

2015 年に準備室の設置。2019 年 10 月文部科学大臣へ大学の設置認可を申請。2021 年 4 月開学であります。準備室の設置から約 6 年で市立大学が設置されました。計画から開学に至る戦略の詳細は不明ですが、6 年という短期間で市立大学の設置を実行した手腕は評価したいと思います。なお、現段階では卒業生がいませんが今後の動向を注視したいと思います。

### 〇三條市立大学開学

- ・三條市総合計画策定は、少子高齢化に特化して作られた内容。（首長命。）
- ・総合計画に高等教育機関の設置または誘致を明記。
- ・平成 27 年 3 月三條市総合計画策定
- ・平成 27 年 4 月には高等教育機関設置準備室を設置
- ・平成 27 年 12 月には医療系高等教育機関の誘致候補者決定する
- ・平成 28 年 8 月大学開設検討員会設置する。
- ・平成 29 年 3 月医療系高等教育機関誘致先との基本協定締結
- ・平成 29 年 5 月三條市議会臨時会を開催し大学開設に向けて取り組む
- ・令和元年 10 月大学設置認可申請
- ・令和 2 年 4 月三條看護・医療・歯科衛生専門学校開校
- ・令和 2 年 10 月大学設置認可・・・コロナで想定より 2 か月遅れる
- ・令和 3 年 4 月三條市立大学開学

〇総合計画策定から 6 年で三條市立大学開学と三條医療・看護・歯科衛生専門学校開校を実現した



結論、本気でやれば何でもできることを学んできた。

- ・その背景には、地域の現状がデータ化されきちんと課題が整理されている。その現状分析の結果から、何をすべきかスピード感を持って対策を考え実現している。
- ・PDCAサイクルがしっかり回っていること。
- ・総合計画の実現性も高いことが感じられた。
- ・当市も大いに真似をしていただきたいことを強く感じた視察であった

### ○三条市立大学（新潟県三条市）

総合計画の策定から6年、大学開設検討委員会の設置から僅か5年足らずで大学を開学させたことに非常に驚いた。しかも既存の大学を誘致するという選択でなく、人口減少・少子化社会の中、あえて自治体大学を設置し、地域内外の若者の卒業後の進路に「三条市の企業へ」という選択肢を作った。それは地元企業への就業促進へもつながり、企業の人材育成・発展の面ばかりでなく、人口対策としても役割も大きい。三条市は「職人、工業の街」とのイメージがあるが、大学のカリキュラムの中で、地元企業とのコラボレーションにより、その地域の特色が十分に取り込まれている。

開学から1年経過しただけだが、初年度倍率が10倍、本年度倍率が5倍と、定員を大きく超えた入学希望者があり、ますますの発展に期待がかかる。



○総花的になりがちな「総合計画」に、少子高齢化、人口減少社会に特化するために「高等教育機関の設置又は誘致」ということが具体的に登載されていることにも驚きであるが、総合計画策定から6年で市立大学を開学させてしまう実行力とスピード感に驚いた。

また、卒業後に三条市の企業にとどまってもらうこともしっかりと考えられており、人材の流出を抑えて人口減少へどう対応していくかという市の姿勢が感じられた。

まだ、卒業生はいないので、今後の動きに期待である。

### ○例月政策会議による政策提言について

#### 趣 旨

例月政策会議は、組織や役職を超えて職員自らの考えなどを自由に議論しながら、課題を発見し、解決していく取り組み。

#### 対 象 者

具体的な問題意識を持ち、その解決に向けて取り組みたい職員又は問題意識はまだ明確になっていないが、自分の考えを何かの形で具現化していきたい意欲ある職員個人または有志によるグループ。

#### 平成 19 年度 テーマ及び提案

- ・仕事：創業・起業環境の整備と人材マッチングの促進
- ・子育て：子育てにやさしいまちづくりの推進
- ・マタニティ：マタニティにやさしいまちづくりの推進
- ・余暇：若者向けスポーツパークの整備



#### 平成 20 年度 テーマ及び提案

- ・イベント：若者をターゲットにしたイベントの開催
- ・健康：こころの健康

#### 平成 21 年度 テーマ及び提案

- ・世界に目を向けよう：Think globally, act locally 地球規模で考え足元から行動しよう
- ・三条を売ろう：さんじょう新発見コンテスト
- ・生きがいを見出そう：シニア世代の生きがいづくり
- ・公務員として必要なものは何かを考えよう：公務員として必要なものは何かを考えよう！

#### 平成 22 年度 テーマ及び提案

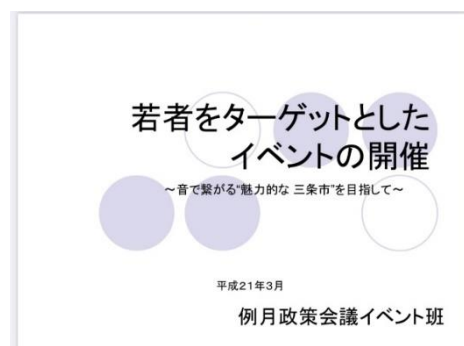
- ・マイレージ・マイライフのススメ イベントに参加してウェルネスポイントをためちゃおう
- ・三条版キッザニア「さんじょうにあ」 人とのつながりに楽しさを見出してもらう

#### 平成 23 年度 テーマ及び提案

- ・“支援から協働へ”「そろそろ次のステージへ進みませんか？」
- ・三条市を知る日～地域イベントカレンダーの導入～
- ・新まんなかプロジェクト
- ・三条に「まねこう」プロジェクト～新たなシティセールの可能性～

#### 平成 24 年度 テーマ及び提案

- ・SOHO ビジネス支援 ～高齢者の収入を増やそう～
- ・「夏休みだよ！全員集合！ ～地域のほっとステーション～」
- ・三条の美味しいが全国の美味しいへ EDMM(えだまめ)プロジェクト
- ・スマイルプロジェクト ～新たな住まいのかたちを応援～





### 平成 25 年度 テーマ及び提案

- ・保護者の目線から子どもの目線へ すまいるランドの魅力アップ大作戦
- ・栄 DE スルーしない三条 PR 大作戦
- ・三条の冬を熱く！！ ～ニッチでディープな交流人口の拡大～
- ・もうひとつの「ものづくり」 ～新規就農支援で人口増を～
- ・主役は子ども 域活(イキカツ)のススメ ～子どもが変われば、地域が変わる～

### 平成 26 年度 テーマ及び提案

- ・ステージ 0 からの移住の促進 ～潜在的ニーズの掘り起こし～
- ・パパママ一緒に料理を学んでみませんか？ ～三条市がステキなデートプランを用意しました～
- ・アウトドアを活かした三条市活性化プロジェクト
- ・「あかり」をツールとした社会貢献活動の促進 ～コミュニティから化学反応を起こす～

### 平成 27 年度 テーマ及び提案

- ・下田郷に新たなキラーコンテンツを
- ・災害に強いひとづくり
- ・公共施設の「攻めの有効活用」を考える
- ・下田郷で甘いひとときを

### 平成 28 年度 テーマ及び提案

- ・学生さんいらっしゃい！ ～来たれ、肉食系鍛冶人～
- ・三条市の新たな魅力を発掘！ 三条市版 夜型観光事業
- ・「路上の芸術」への着眼 ～マンホールマニアへのアプローチ～

### 平成 29 年度 テーマ及び提案

- ・職結びの祭事～三条ものづくり企業の存続を担う若者たちの誘引～
- ・三条で夢を叶えてほしい！-夢だって『ものづくり部』で作れる大作戦-

### 平成 30 年度 テーマ及び提案

- ・まちなか小路縁日～小路がつなぐヒト・コト・バ～
- ・八幡公園改良プロジェクト
- ・10 年後の三条市のために～ドローンを活用したまちづくりへの第一歩～



## 平成 31 年度（令和元年度）テーマ及び提案

- ・キッチン楽+楽イベントの創設
- ・結婚、出産後の女性 の働き方を考える

◎平成 19 年から平成 31 年までに提案されたもののうち 23 項目が事業化された。

※現在、例月政策会議は行われていないとのことであるが、組織や役職ということではなく、職員自らの考えなどを自由に議論しながら、課題を発見し、解決していくという取り組みがどのように行われてきたのか、また、現在の職員の意識はどうか先進事例より学ぶ。

## ○所 感

○例月政策会議による政策提案について

- ①若者を中心に、組織や役職を超えて（本業にプラスして）班を設置し活動している。
- ②例月政策会議は、課題に沿って必要に応じて開催している。
- ③取組例として、イベントの開催（音楽祭の提案、実施）、公共施設の利活用（まちなかへの人の回流を目的）、女性の視点を取り入れた手法（発災時の子連れ出勤→緊急時の一時託児所解説）等。

若者や女性の視点で具体的にまちづくりに参加していました。これらの活動により、まちの活性化だけでなく職員のモチベーションも上がると思いました。

○例月政策会議について

- ・例月政策会議とは、組織や役職を超えて職員自らの考えなどを自由に議論しながら、課題を発見し、解決していく取り組みである。
- ・例月政策会議の対象者は、手上げ方式で具体的な問題意識を持ち、その解決に向けて取り組みたい職員または有志によるグループとしている。
- ・平成 19 年から始まったこの取り組みは、40 項目の取り組み例が提案され、23 項目が事業化されている。
- ・この例月政策会議は、今当たり前の風土になってきたことから、一旦停止状態となっており、現在は職員間のラインワークスで行っているとの説明を受けた。

結論、当市としても同様の取り組みがされていると思うが、アピールが下手なのか市民や議会には活動内容が見えにくいいため、三条市の良い所を真似していただきたいことや、データ収集による現状把握と的確な分析力からの具体的な取り組み提案までのスピード感を実践していただきたいと感じた。

### ○例月政策会議による政策提案について（新潟県三条市）

異動の多い市職員にとって、得意分野または日々の生活の中で、課題を発見し提言できる場があることは職員の「やる気」の増進につながるとともに、様々なプロジェクトが実行され市民の福祉となっている。現時点では例月政策会議は開かれていないということであるが、コミュニケーションツールとしては別に「ラインワーク（庁内掲示板）」において日々の業務における課題を上げることができる仕組みがあるという。

自身の担当課の枠を超えた意見を上げる「場」があるということは、全ての市の事業において庁内を横断的に捉えることができる環境があるということでもあり、素晴らしい取組であると思う。

### ○例月政策会議による政策提案について

おそらくこういった取り組みは、どこの自治体でも行われているであろうと思われるが、ここまで具体的に事業化がされ、また、職員が考えたものがしっかりと公表されていることは非常に素晴らしいと感じた。

現在は行われていないとのことであるが、こういった取り組みは想いのある職員等のモチベーションアップのためになるのではないかと考える。

### ○まちづくり施策と公共交通について

#### ●三条市内の公共交通

##### ・三条市デマンド交通「ひめさゆり」

予約に応じて、市内全域に設置されている三条市デマンド交通「ひめさゆり」の停留所間を運行します。

運行時間内であれば、利用者の希望により乗り降りする時間を決めることができ、比較的低料金で利用することができます。



##### ・市内循環バス「ぐるっとさん」等

市内7つのコース等を、決まった時間に運行しています。

一度に大勢の人数で利用できるほか、運賃も低額です。



#### ・高校生通学ライナーバス

路線バスの一部の便について、下田方面から市街地にある高校まで延伸して乗り換えなしで運行しています。

朝の通学、夕方の帰宅時間にあわせて運行しています。(学生以外の方も利用できます)



#### ・井栗地区コミュニティバス

井栗区自治会内にお住まいの方の“地域の足”となっているコミュニティバス。

住民の皆さんの意見を取り入れて、運行に反映できることが魅力です。

(現在、井栗区自治会内にお住まいの方以外はご利用いただけません。)



#### ・路線バス

交通事業者(越後交通・新潟交通観光バス)が運行する路線バスです。

市内線だけでなく、市外線・県外線もあります。

- ・ 近郊路線バス (燕、加茂、長岡方面ほか)
- ・ 県内高速バス (新潟、長岡方面ほか)
- ・ 県外高速バス (東京、京都・大阪方面ほか)



#### ・タクシー

24 時間、365 日、いつでも利用できることがタクシーの魅力です。

通常のタクシーだけでなく、空港送迎などの独自のサービスを行っているところもあります。

- ・ エスタクシー (電話番号 0256-32-5021)
- ・ 三条タクシー (電話番号 0256-33-1661)
- ・ 中越交通 (電話番号 0256-38-2021)
- ・ 日の丸観光タクシー (電話番号 0256-35-5555)

(注意)会社名は 50 音順



#### ・鉄道 (JR 線)

市内にある駅からは、「上越新幹線」、「信越本線」、「弥彦線」の各路線が利用できます。

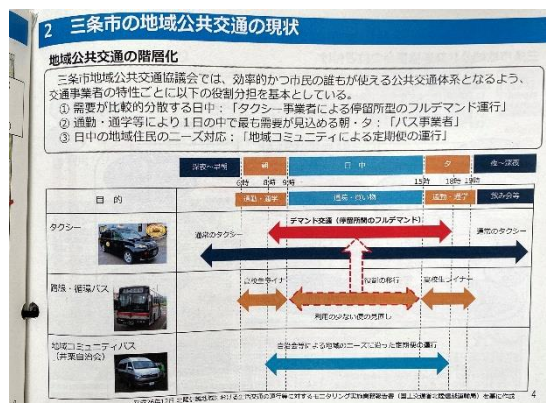
- ・ 上越新幹線 (東京・長岡 方面⇄燕三条駅⇄新潟)





- 信越本線（長岡方面⇄帯織駅・東光寺駅・三条駅・東三条駅・保内駅⇄新潟方面）
- 弥彦線（吉田・弥彦 方面⇄燕三条駅・北三条駅・東三条駅）

※地域間連携の強化や交通弱者に対する利便性向上に向け、自家用車に代替しうる高水準のデマンド交通を確立したほか、既存の路線バスを活用した高校生通学ライナーバスなど、地域の実態に即した交通体系を構築し、地域公共交通の活性化・再生に積極的に取り組んだことにより、地域公共交通活性化・再生優良団体国土交通大臣表彰を受けるまでに至った先進事例を学ぶ。



## ●図書館等複合施設「まちやま」



## 多世代交流・生涯学習の拠点となるまちなかの中核施設「まちやま」

2022年7月開館の図書館等複合施設「まちやま」は、図書館・鍛冶ミュージアム・科学教育センターが一体となった複合施設です。

廃校となった旧三条小学校（1872～2017）の跡地活用として、現三条市立図書館（1983～）の移転建て替えを契機に、従来の図書館の枠に収まらずに多世代・多目的な活動と交流の拠点となる『まちなかの中核施設』を目指し計画されました。

西側に3階建ての本館、東側に1階建てのサイエンスホールを配置し、それらが「やまなみのような大屋根」で一体化されます。

敷地の南には小学校グラウンドを残した「グラウンドひろば」、北東には小学校中庭の桜を残した「ラボひろば」が設けられ、2つの広場と軒下の半屋外広場「通りドマ」を介して敷地南北を繋ぎます。

敷地全体で最大限に既存樹木を保存活用し、旧三条小学校の記憶を引き継いだ緑豊かなオープンスペースを介して敷地・施設の賑わいをまちなかへと広げます。

## 計画概要

建設地：三条市元町旧三条小学校跡地

敷地面積：13,613.08 m<sup>2</sup>

建築面積：2,771.64 m<sup>2</sup>（本館 1,895.86 m<sup>2</sup>+ホール 875.78 m<sup>2</sup>）

延床面積：5,112.73 m<sup>2</sup>（本館 4,388.90 m<sup>2</sup>+ホール 723.83 m<sup>2</sup>）

構造：RC造一部鉄骨造／杭基礎

階数：地上3階建て

最高高さ：15.290m

蔵書数：開架約15万冊（うち児童書3万冊）

閉架約17万冊

設計監理：隈研吾建築都市設計事務所（総合）

2019.4 + 構造計画研究所（構造）

~2022.2 + 森村設計（設備）

+ 三条市建築設計協同組合（協力）

施工：福田・桑原・長谷川興産 JV（本館建築）

2020.9 加賀田・米山 JV（多目的ホール建築）

~2022.2 大方・須藤・大原 JV（電力設備）

ナガオケ・サカエシステム JV（空調設備）

三条配管工業（衛生設備）

大島電機（通信設備）



## ・まちやまってどんなところ？

まちやまは、「図書館」、「鍛冶ミュージアム」「科学教育センター」、「ステージえんがわ」「ひろば」が一体となった施設です。

にぎやかさと静けさが共存し、1階はカフェなどの新たなサービスとにぎわいのフロア、2階は幅広い世代が学ぶフロア、3階は静かな読書と学習のフロアとなっています。

### ・まちやまのコンセプト

学ぶ、見る、触れる。ものづくりのまちの図書館等複合施設です。

3つの主な機能があります。

#### 図書館機能

開放的で自由な学び、知識、くつろぎの空間。

学 ぶ



見  
る  
触  
る



#### 鍛冶ミュージアム機能

鍛冶職人の「よりどころ」となり、過去から受け継がれた「今」を展示し、未来へつなげる。

学 ぶ



#### 科学教育センター機能

「ものづくり」のDNAを受け継ぐ児童生徒の科学的思考と想像力の育成。

### ・まちやまの名前の由来

まちの中にある大きな山のような施設のかたちと、その中にいろいろな楽しさや、知識、学びが詰まっている様子をイメージしました。

また、隣のステージえんがわ（2016年に開館）の「えんがわ」とそろえてひらがな4文字にしました。（2021年に市民からの公募で愛称が決まりました）



※2022年7月24日（日）に開館した図書館等複合施設「まちやま」は、図書館・鍛冶ミュージアム・科学教育センターが一体となった複合施設。

まちのなかへ多世代交流や生涯学習の拠点となる複合施設を建設することで、人の流れをつくっている。大町市においての複合施設の可能性を考える一助とするため先進地の取り組みを学ぶ

また、廃校となった旧三条小学校の跡地活用として建設されている一面もあり、大町市でも学校の跡地利用の検討が必要となるため経緯など事例を学ぶ。

## 〇所 感

### 〇公共交通の取り組み

担当課から地域公共交通に関する取り組みについて30ページを超える資料に基づき説明を受けました。その資料は、今までの取り組みの分析やそれまでの運営実績など、データに基づき理論的に記されていました。データに基づく正確な分析から課題が見えてくると改めて思いました。市民のニーズを的確にとらえ、公共交通の利便性の向上に向かって、行政の負担も改善しながら取り組んでいました。

大町市も正確なデータを基に市民ニーズを把握し、持続可能な公共交通の構築が必要だと思いました。

### 〇公共用交通とまちづくりについて

結論、当市はデータを基にした公共交通の現状把握ができていない。

バス運行は委託業者に任せっきりのように思われる。三条市のようなデータ収集を基にした地域公共交通の現状把握と効果的な対策、さらには5年後の公共交通の姿を提案するような気概を持っていただきたいことを強く感じた。

### 〇三条市のまちづくり施策と公共交通について（新潟県三条市）

公共交通に関しては、デマンド交通が運航開始されてから10年以上が経過しており、利用者も多く地域交通の中での役割も大きい。ほかの地域公共交通との連携もデマンド交通を中心に組まれている。地域公共交通全体のデータ解析能力が高く、現状をよく把握



している。よって、課題から今後の方向性について社会情勢と実情に即した対策が組まれて



いると感じた。

まちづくりに関しては、少子高齢化社会における、まちづくりのために特化された施設「ステージえんがわ（まちなか交流広場）」と「まちやま（図書館、ミュージアム、科学教育センター）」についての取り組み経緯を受けた。ステージえんがわでは、令和元年度270回ものイベントが開催され、4万4,000人もの集客があった。両施設は市内でも最も高齢化率が高く少子化の進んだ地域での立地で、市内で一番歴史の古い小学校跡地にある。そのような場所に高齢者が外出しやすく、また子供たちの集まりやすい施設があることで、世代を超えた憩いの場所として、地域の賑わいが作られている。

#### ○三条市のまちづくり施策と公共交通について

公共交通に関しては、担当課がしっかりとデータに基づいた現状把握をし課題解決に向けて検討がされている。大町市では、データに基づいた課題解決ができるのか・・・。

まちづくりに関しては、2022年7月24日（日）に図書館等複合施設「まちやま」が開設された。図書館・鍛冶ミュージアム・科学教育センターが一体となった複合施設で、まちなかへ多世代交流や生涯学習の拠点となる複合施設を建設することで、人の流れをつくっている。視察当日も多くの方が図書館を利用したり、学生が勉強をしていた。大町市においても、こういった複合施設建設の必要性を感じた。

また、5年前に廃校となった市内で一番歴史のあった旧三条小学校の跡地活用として建設されている。地域の方々との調整は大変だったということであるが、いつまでも空いたままにしておくのではなく、まちづくりをどうしていくのか、そのためにこの土地をどう使うのかというビジョンがハッキリしていて、5年で「まちやま」が建設されたスピード感には驚いた。大町市でも学校の跡地利用について、「今後考える」ではなく、まちづくりの観点等をしっかり持ちスピード感をもって考えていっていただきたい。

